

問一 傍線部(ア)～(ウ)の意味として最も適當なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

(ア) 口実

- 1 正当な手段
- 2 上手な語り口
- 3 誰もが認める方法
- 4 こじつけの推論
- 5 もっともらしい言いわけ

(イ) 勝手知ったる

- 1 様子のよくわかっている
- 2 使い慣れている
- 3 普段からよく訪れている
- 4 自由に振る舞える
- 5 自分の身になじんでいる

(ウ) 得心のいかぬまま

- 1 問題の解決を棚上げにしたまま
- 2 気持ちに沈んでいるまま
- 3 やるべきことをあきらめたまま
- 4 時間をむだに使ったまま
- 5 自分なりの了解ができないまま

(ア)

(イ)

(ウ)

問二 傍線部A「哲は手紙を読みながら口をへの字に曲げた」とあるが、ここで「哲」は、自分についてどういうことを感じたと考えられるか。わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部B「哲はそんな星空を見せてやりたいと思った」とあるが、こう思った哲の気持ち

についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ふとしたことから尾島の口癖を思い出した哲は、さほど人生経験を積んではない美由に対して、喜びは星の数ほどあるという真実を見せたいという気持ちになっている。
- 2 自分の世界を理解してくれる人間が少ないという不満に苛さいなまれていた哲だったが、美由とは心が通い合うように感じ、漠然とではあるが彼女と喜びを分かち合いたいと考えている。
- 3 何事も本物を見なければ意味はないと考えていた哲は、美由が流れ星を見たことがないのを知って、なんとかして本物の流れ星を見る喜びを与えてやりたくなっている。
- 4 自分の世界を大切にする傾向のある哲だったが、美由とは同じ世界を共有できるような気がして、自分なりに彼女を楽しませてやりたいと思うようになっていく。
- 5 天候の悪化を予想できず、流星群を見るよう美由に勧めたことに自責の念を感じた哲

